

いわいの大地

農家と農業委員会をつなぐ広報誌

「トマトは自由気まま。なにが欲しいのかしゃべってくれればいいのに。」と笑う三浦さん。しかしハウスのトマトはどの茎も支柱に支えられ真っすぐに伸び、大玉のトマトが一つの芽から3、4個と見事に形良く成っており、三浦さんのトマトに対する深い愛情が感じられました。

三浦さんは、藤沢地域の農地利用最適化推進委員の菅原良博さんのご自宅に「しよっちゅう行ってる。」とのことで、菅原さんのアドバイスは丁寧で、本当に頼

三浦雅幸さんは現在、会社に勤務しながら、自宅から5kmほど離れた場所にある、自らが栽培しているトマトのビニールハウスに月曜日から金曜日までは必ず朝と夕方に行き、土曜日と日曜日は、ほぼ一日中、トマトの手入れをして過ごしているそうです。



新しい知識を得られることは楽しい



【藤沢地域】
三浦 雅幸さん (59)



りになるそうです。「新しい知識を得られることは楽しい。」と話す三浦さんは、農業用の道具も、自分で工夫して作っており、「いかに効率よく、形の良いトマトを、数多く収穫するかが大切。」と毎日、トマトと向き合っています。

退職後は、ご家族で本格的に農業をやっていたみたい、とのことで、「今の時期は、いろいろなストレスが溜まりがちだけれども、このハウスに来て、農作業をしていると自然に消えて、気持ちが良いになる。」と穏やかな笑顔で話してくれました。

(1)肉用牛肥育経営安定緊急対策特別事業

国が行う「肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)」に、市独自の乗せを実施します。

対象 令和2年2月から令和3年1月に販売された枝肉で牛マルキンが発動された黒毛和種標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合の差額(赤字額)の9割

→牛マルキンから補填

→①令和2年2月から3月に販売された枝肉

補填されない1割分の1/4(上限5,000円/頭)を市が補助。

→②令和2年4月から令和3年1月に販売された枝肉

補填されない1割分を市が補助。

(2)肉用牛肥育経営継続支援特別対策事業

新型コロナウイルス感染症を受けての肥育素牛導入助成(既存の肥育素牛導入助成とは別枠)します。

要件 令和2年7月から令和3年3月に一関市内産の子牛を肥育素牛として市場導入する場合4万円助成

詳しくは、一関市農林部農政課畜産園芸係(電話 0191-21-8427)にお問い合わせください。

一関市独自事業

新型コロナウイルス感染症の影響による肉用牛農家支援対策

新型コロナウイルスの感染拡大により大きな影響を受ける肉用牛農家に対して、経営の下支えをするために、一関市では左記の事業を行います



農地パトロールを実施します

農業委員会では、9月までの期間に農地パトロールを実施します。

利用
状況調査



農地パトロールは、各地域の農地の利用状況の確認、遊休農地の実態把握と発生防止・解消、違反転用の発生防止・早期発見を目的としています。調査の際には、担当の農業委員・農地利用最適化推進委員が農地に立ち入ることがありますので、ご理解とご協力をお願いします。

調査の結果、遊休農地または遊休化の恐れがある農地と判断した場合は、所有者の方に農地の利用意向調査の文書を送付しますので、受け取った方は期限までに必ず回答してください。回答しない場合や、回答したとおりに農地が利

用されていない場合は、「農地中間管理機構との協議の勧告」が行われ、固定資産税の課税が強化される場合があります。

農地の利用についてお困りのことや、わからないことがありましたら、お早めに地域担当の農業委員・農地利用最適化推進委員または農業委員会事務局、各支所産業建設課にご相談ください。



7月10日に「農地の日」の取り組みとして行った出発式
上(室根地域)
右(東山地域)

新任農地利用最適化推進委員紹介



③1 今野 壽

64歳 川崎町薄衣

農地利用最適化推進委員は、川崎地域担当の高橋栄男委員の逝去により1月から1名が欠員となっていました。

このたび、新しい農地利用最適化推進委員として今野壽さんが任命され、3月25日に伊藤公夫農業委員会会長から委嘱状が交付されました。任期は令和3年9月19日までです。

なお、川崎地域を担当する農地利用最適化推進委員は次のとおりとなります。

担当地域	農地利用最適化推進委員氏名	電話番号
川崎(薄衣・門崎)	今野 壽	43-3415
川崎(薄衣・門崎)	小野寺 修	43-2493



一関市では、岩手県、農業委員会、JA、土地改良区等の関係機関と協力して、「地域農業マスタープラン」実質化の取組みを進めています。

市内を旧市町村単位の33地区に分け、その内担い手への集積率が50%未満の21地区について、実効性のある「地域農業マスタープラン」（「地域農業マスタープラン」の実質化）が必要となりました。

「地域農業マスタープラン」は、地域の話合いによりまとめられるものですので、地域の話合いがとても大切です。今後、各地域で話合いを開催しますので、農業者の皆様のご参加をお願いします。

「地域農業マスタープラン」 実質化の話合いにご参加ください

写真はイメージです

「地域農業マスタープラン」とは

農業者の高齢化や担い手不足が心配される中、5年後、10年後の地域の農地を誰が担っていくのかを、地域の話合いにより取りまとめるプラン。

「地域農業マスタープラン」実質化について

国は令和5年度までに全国の農地の8割を担い手に集積する目標を掲げ、その実現に向けて令和2年度末までに実効性のある「地域農業マスタープラン」を作成すること（「地域農業マスタープラン」実質化）としています。

国の方針を受けて一関市では、農業者の皆様、関係機関と協力し、令和3年3月までに「地域農業マスタープラン」の実質化を進めています。

「地域農業マスタープラン」実質化の取組みの流れ

- ① 農業者の皆様へアンケートの実施
- ② 現況を地図化
アンケートから農業者の年齢、後継者の有無など「見える化」
- ③ 地域の話合い（令和2年11月～順次実施予定）
 - 後継者がいない農地はどうするのか
 - 5～10年後地域の農地を誰が担っていくのか

問い合わせ

本 庁	農政課担い手支援係	☎0191 (21) 8225
花泉支所	産業建設課農林係	☎0191 (82) 2908
大東支所	産業建設課農林係	☎0191 (72) 4081
千厩支所	産業建設課農林係	☎0191 (53) 3962
東山支所	産業建設課農林係	☎0191 (47) 4523
室根支所	産業建設課農林係	☎0191 (64) 3806
川崎支所	産業建設課農林係	☎0191 (43) 3601
藤沢支所	産業建設課農林係	☎0191 (63) 5317
本 庁	農業委員会事務局	☎0191 (21) 8692



農業者年金で明るい将来計画!

今だから加入を勧めたい

【千厩地域】千葉喜美雄 さん



農業者年金のお問い合わせは
農業委員会またはお近くのJA窓口へ
電話 21-8692
(一関市農業委員会)

千厩町清田の千葉喜美雄さん(76)は、先代の父親の代から、煙草耕作者として、高校卒業後就職してきました。その間廃作奨励が、数回あったそうです。これは、廃作することによって、他の作物に変えるためにJ-Tがすすめて、周りの耕作者は応じてやめ、地域では数戸の農家しか現在に残っていません。千葉さんは、新たな作目を選択すると、また一から勉強しなければ、と一貫して煙草栽培を行っています。もちろん、年齢に達してきているので、今は息子の手伝いとして、積極的に活躍しています。

若いころは、酪農も手掛けましたが、草刈シーズンと煙草の収穫が重なって、その後、酪農は辞めたそうです。

農業者年金を知ったのは、40歳の時、おじさんが加入しているのを聞き、加入しました(これは、旧農業者年金制

度)。その後、新制度に代わって、完全に個人年金として、現在に至っています。旧農業者年金から新農業者年金に切替の時、掛金の80%を返す、この処置をとった時も、友人から「ここで、やめないで。」とのアドバイスを受け、当時、お金が欲しかった時期ではありましたが、続けることとしました。

国民年金は、最近マクロ経済スライドで何年か後に結構目減するのでは、との話もあります。農業者年金は、個人年金なので掛けた分だけいただけるので、老後の生活の計画も立てやすいので、現役世代の方々も是非加入を考慮する時期ではないでしょうか。

国民年金は、手続きの仕方にもよりますが、介護保健料等の引き去りがあるので、額面通りにもらえないが農業者年金は額面通りきっちりいただけるのも、メリットだと思います。

全国農業新聞



購読料

月額 700円

全国農業新聞の購読を!

農業委員会組織が協力して作成している新聞で、毎週金曜日発行しています。

●お申込みは、農業委員会または各支所産業建設課まで

農業委員会では、一関市のホームページで委員会に関する情報を提供しています。毎月の総会日程や議事録、農作業標準賃金、届出や手続きの案内などを掲載していますのでご覧下さい。

<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/>

一関市のトップページの「総合案内トップページ」をクリック。画面上部の「産業振興」タブから農業委員会ページへお進みください。



編集後記

太陽の光がまぶしく、緑の色が深くなりました。

今年も、半分過ぎてしまいました。お正月にたてた希望の一年がこのようなコロナ禍になるとは、誰も想像にすらしなかったことと思います。本来なら東京オリンピック・パラリンピックが開催され感動・感激や勇気をもらい、また、外国からのお客様により景気の良いことだったでしょう。

そんなコロナ禍においても農家の仕事は、毎年同じように進んでおります。なぜなら命を預かることを生業としているからです。一年に一度しか作ることで、できないことを生業としているからです。経済原理の中、不安定で厳しい環境にあります。自然に敬意を払い、恵みをいただき、感謝しながら収穫の秋を迎えたものです。

農業委員 遠藤 勝幸

「いわいの大地」編集委員会

編集委員長 佐藤 圭一

副委員長 千葉 太郎

編集委員

佐藤多賀幸 畠山 潔

菅原 清一 藤原美喜男

遠藤 勝幸 菅原 良博

